

# 哲 学 論 集

第 39 号 1992

---

## 論 文

科学主義批判再考——誤差・近似論

—— 凡夫の学のために ——……………野 村 哲 也 (1)

「授業」の教育本質論的考察……………大 竹 鑑 (22)

ベルクソンと第一次世界大戦

—— 哲学・哲学者・政治 ——……………鈴 木 幹 雄 (35)

法廷から劇場へ

—— ヘーゲルの世界観 ——……………門 脇 健 (50)

『知識学』における事行と絶対者……………判 田 哲 也 (65)

学会活動報告

---

大谷大学哲学会

# 大谷大学哲学学会会則

## 第一条 (名称)

本会は、大谷大学哲学会と称する。

## 第二条 (目的)

本会は、広義の哲学の研究と発表を行い、各学問領域の交流を盛んにして、学界に寄与することを目的とする。

## 第三条 (事業)

本会は、下記の事業を行う。

- 1 会誌「哲学論集」の発行
- 2 その他必要な事業

## 第四条 (会員)

本会の会員は、大谷大学哲学諸関連学科に所属する教員、大学院学生を中心にし、本会の趣旨に賛同する者とする。入退会は、第五条の2に定める委員会において、これを承認する。

但し、3年分の会費を滞納した者は会員資格を喪失するものとする。

## 第五条 (役員)

本会は、下記の役員を置く。

- 1 会長 本会を代表し、運営における責任

## 第六条 (総会)

を負う。任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 学会委員 若干名をもって委員会を組織し、総会の決議に従い、本会の運営にあたる。任期は2年とし、再任を妨げない。

- 1 総会は、下記の事項を審議し、議決する。

- (イ) 会長及び学会委員の選出
- (ロ) 予算及び決算
- (ハ) 事業方針
- (ニ) その他必要な事項

- 2 総会は、会長が召集し、会員の3分の1以上の出席をもって成立する。

## 第七条 (経費)

本会の経費は、会費(年額5000円)及びその他の収入による。

## 第八条 (会計報告)

各年度会計報告は、総会において行う。

## 第九条 (会則の変更)

本会則の変更は、総会において出席者の2分の1以上の同意を必要とする。

## 附則

- 1 本会則は、昭和54年4月1日より施行する。
- 2 昭和57年5月15日一部改正。
- 3 平成元年5月20日一部改正。

## 編集後記

昨今の大学をめぐる状況の変化は実に激しい。本学でも本年度より短期大学部国文科が文化学科に改組されたのに続き、新年度からは文学部に国際文化学科が新設される。また「大網化」に基づく新しいカリキュラムが導入されて早くも一年がたつ。具体的な変更点は、従前の一般教育と専門教育との区分が廃止され、共通科目・学科指定科目・自由科目という三群からなるカリキュラムへと再編されたことである。この改訂は、大学に対して、個々の学生の関心や個性を尊重し、主体的な学びの場を提供すべきことを要請している。

このたびの改革を形式的な改革に終わらせず、実質的な改革とするためには、教育者でもあり研究者でもある我々は何をなすべきか。高等教育機関としての大学が、学生の勉学意欲を引き出し、燃え立たせるような魅力ある教育を実現するには、それを支え裏打ちする誠実な研究が蓄積されねばならない。今回のカリキュラム改訂は、単なる教育課程編成上の表面的な手直しにとどまるものではないはずである。我々一人一人に、自らの学問に対する取り組み方をも含めて、大学および高等教育の意味についての根本的な問い直しを迫るものであろう。我々は、大学教育の改革が提起する重い課題を絶えず意識しながら、各自の学問研究を進めていく責務がある。

本号には、哲学、倫理、宗教、社会、教育の各分野から寄せられた五篇の研究論文を掲載することができた。本年度は編集委員が交替したため、例年に比べて刊行が若干遅れたことをお許しいただきたい。次号からは、従来以上に円滑な刊行をめざしたいと思う。会員諸氏には、さらなるご理解ご協力を望む。最後に、本年度より野村哲也教授が会長に変わったことをご報告しておく。

編集委員 箕浦・鈴木・松村  
門脇・関口・三村

### 哲 学 論 集

第39号

1993年3月15日印刷  
1993年3月20日発行

編 集  
発 行

### 大谷大学哲学会

代表者 野村哲也

京都市北区小山上総町  
大谷大学内 (TEL 432-3131)

印 刷

(株)石田大成社  
京都市中京区丸太町通小川西入  
TEL 211-9111 〒604

# TETSUGAKU RONSHU

## THE PHILOSOPHICAL STUDIES

---

No. 39

1992

---

### Articles

Naturalism in Sociology Revisited

— “piecemeal tinkering” and “error” ..... *Tetsuya Nomura* (1)

An Essay on “Teaching–Learning Process”

— from the Viewpoint of an Educational Essential Theory

..... *Akira Otake* (22)

Bergson and the World War I ..... *Mikio Suzuki* (35)

Vom Gerichtshof zum Theater

— Hegels Weltanschauung ..... *Ken Kadowaki* (50)

Tathandlung und das Absolute in Fichtes Wissenschaftslehre

..... *Tetsuya Handa* (65)

### Announcements

---

THE OTANI PHILOSOPHICAL SOCIETY  
OTANI UNIVERSITY